

平成31年度鳥取県立博物館事業について

平成30年12月
(単位:千円)

事業番号	事業名	事業概要	H31 要求額 (千円)	前年度 予算額 (千円)	前年度比 (千円)	備考
1	企画展開催費	鳥取県の自然・歴史・美術分野の資料、作品、研究成果等や世界的・全国的に貴重な作品等について、企画展として広く県民に紹介する。 (1)自然:人と動物～手塚治虫の伝言～ (2)人文:黄檗と鳥取藩 (3)美術:ニューヨーク・アートシーン展 (4)美術:生誕120年 塩谷定好展 (5)美術:静寂なる砂の景 生誕100年 國領経郎展	88,404	89,575	△ 1,171	・マスコミとの実行委員会方式での開催することを継続する。 ・人と動物展については、手塚治プロダクションとの連携を予定している。 ・ニューヨーク・アートシーン展については、徳島県、和歌山県、埼玉県と実行委員会を組織し、(一財)地域創造の助成金を活用して開催予定。
1.1	企画展開催費 (H32分:債務負担)	平成32年度に計画している企画展の準備を行う経費。 (1)自然:森の宝石 変形菌ワンダーランド (2)人文:60'東京オリンピックとその時代 (3)美術:暮らしに生きるフィンランド デザイン展 (4)美術:ミュージアムとの創造的対話03 (5)美術:岡本太郎とクルト・セリグマン展	88,806	87,400	1,406	・平成34年度(2022年度)の開館50周年に向けて、館内にPTを置いて記念事業の内容の検討を始めた。
2	博物館運営費	施設の維持管理、博物館を運営するための経費。 博物館が収蔵している約25万点におよぶ資料を害虫やカビ類などから守るための被害調査や防除対策を行う。	105,649	91,417	14,232	・収蔵資料管理事業から移管(+4,535) ・展示ケースの購入(+9,900) ・冷温水発生器漏えい調査(+968)
3	博物館交流事業	中国、韓国、ロシアの博物館(河北省博物院、国立春川博物館、アルセーニエフ名称沿海地方国立博物館)との交流や情報交換等を行う。	2,418	3,788	△ 1,370	・河北省博物院交流20周年記念展の当館開催→河北省開催(△858)
4	自然事業費	自然部門(地学・生物・植物)の資料の収集・修復、調査研究及び常設展示を行うとともに、資料収集・調査研究等を推進し、新たな知見や発見を分かりやすい形で展示等に反映する。	12,327	14,160	△ 1,833	・非常勤職員(地学)の延長5年終了、延長を要求 ・オオサンショウウオ飼育水槽改修の終了 ※標準事務費△2,000
5	人文事業費	人文部門(考古・歴史・民俗)の資料の収集・修復、調査研究及び常設展示を行うとともに、藩政資料の整備、修復・情報発信を行う。あわせて、資料収集・調査研究等を推進し、新たな知見や発見を分かりやすい形で展示等に反映する。	23,402	23,769	△ 367	・明治維新の一級資料整理・研究(+763) ・(新)縄文土器整理事業(非常勤+1,915) ・寄贈古文書の整理・登録の終了(非常勤△1,915)
6	美術事業費	美術部門(絵画・彫刻・工芸・写真等)の資料の収集・修復、調査研究及び常設展示を行うとともに、資料収集・調査研究等を推進し、新たな知見や発見を分かりやすい形で展示等に反映する。	18,439	16,896	1,543	・H31は近代美術展示5回のため常設展示費が増加見込み(H30は2回)(+2,786)

事業番号	事業名	事業概要	H31 要求額 (千円)	前年度 予算額 (千円)	前年度比 (千円)	備考
7	博物館普及事業費	県民の生涯学習や学校教育を支援するために、各種の講座や体験学習会、移動博物館などを実施するとともに、博物館の活動、研究成果、利用方法などについて広く情報を発信する。	12,880	12,332	548	・ミュージアムソフトシステムの更新
8	美術館・博物館等ネットワーク強化推進事業	鳥取県ミュージアム・ネットワークが実施する、①県内の美術館・博物館等における具体的な協力連携の取組、②各館の歴史民俗資料の保存活用機能を向上させる取組を支援することにより、県内の博物館等の連携基盤を確立してネットワークの強化を図る。	1,202	1,557	△ 355	
9	鳥取県立美術館整備推進事業	数年後の県立美術館開館に向けて、美術館活動の効果を先行して波及させるとともに、県民と連携した美術館づくりを行っていくための経費。	(検討中)	4,935		<要求内容検討中> ・PFI事業者選定事業 ・建設場所調査業務委託 ・県民がつくる美術館事業
	収蔵資料管理事業	博物館が収蔵している資料を害虫やカビ類などから守るための経費。	0	5,509	△ 5,509	・博物館運営費に統合(△5,509)
	鳥取藩絵師粉本類修復事業	鳥取藩絵師の小畑稻升、黒田稻皐、沖一峨の門人らを中心とする粉本類資料の修復を4か年計画で行い、今後の展示に活用する。	0	1,796	△ 1,796	・4年計画(H27~30)の終了
	第11次郷土視覚定点資料収集事業	郷土の変化を視覚的かつ的確に把握・理解するため、5年ごとに同一地点(定点)の写真撮影を行い、その写真を歴史資料として収集・保存する。	0	7,141	△ 7,141	・平成30年度の臨時事業
計			(264,721)	272,875	(△8,154)	

()について:政策戦略事業として要求作業中の事業があり、要求総額は未確定。

平成31年度（2019年度）企画展開催計画（案）

※企画展名はすべて仮称です

分野	企画展名	会 期	予算要求額（千円）
美術	ニューヨーク・アートシーン展 【単独開催（他館との巡回展）】	平成31年 4月13日～ 5月19日	14,752
自然	人と動物～手塚治虫の伝言～ 【単独開催（手塚プロ・マスコミ）】	平成31年 7月13日～ 8月25日	21,415
人文	黄檗と鳥取藩 【実行委員会方式（予定）】	平成31年 10月5日～ 11月4日	20,874
美術	生誕120年 塩谷定好展 【実行委員会方式（予定）】	平成31年 11月16日～ 12月15日	17,942
美術	静寂なる砂の景 生誕100年 國領経郎展 【単独開催】	平成32年 1月25日～ 2月25日	13,421
合 計			88,404

＜平成31年度の主な取組＞

①実行委員会方式での開催（2件）

- ・平成28年度（1件）、平成29年度（2件）、平成30年度（3件）に引き続き、報道機関と実行委員会を組織して開催することで、テレビCM等による広報を強化し来館者増を図る。

②その他

- ・ニューヨーク・アートシーン展については、徳島県、和歌山県、埼玉県と実行委員会を組織し、（一財）地域創造の助成金を活用して開催予定。
- ・人と動物展については、手塚治プロダクションとの連携及びマスコミとの共催を予定している。

THE UNIVERSITY OF CALIFORNIA LIBRARY

UNIVERSITY OF CALIFORNIA LIBRARY

DATE	BY	REMARKS	INITIALS
1951			
1952			
1953			
1954			
1955			
1956			
1957			
1958			
1959			
1960			
1961			
1962			
1963			
1964			
1965			
1966			
1967			
1968			
1969			
1970			
1971			
1972			
1973			
1974			
1975			
1976			
1977			
1978			
1979			
1980			
1981			
1982			
1983			
1984			
1985			
1986			
1987			
1988			
1989			
1990			
1991			
1992			
1993			
1994			
1995			
1996			
1997			
1998			
1999			
2000			
2001			
2002			
2003			
2004			
2005			
2006			
2007			
2008			
2009			
2010			
2011			
2012			
2013			
2014			
2015			
2016			
2017			
2018			
2019			
2020			
2021			
2022			
2023			
2024			
2025			

平成31年度企画展
「ニューヨーク・アートシーン
ーロスコ、ウォーホルから草間彌生、バスキアまで
滋賀県立近代美術館コレクションを中心に」

開催要項（案）

1. 趣旨

第二次世界大戦後の美術において、ニューヨークは多くの画期的な表現を生み出した。大戦中、戦火を逃れてヨーロッパから移り住んだ多くの作家たちによって伝えられた最先端の表現はアメリカの若い作家たちを刺激し、新しく意欲的な表現へと道を開いた。1940年代後半より明確な運動として浮かび上がる抽象表現主義はアメリカ美術の最初の高まりであり、画家たちはアクションと呼ばれる激しい身振り、あるいはカラーフィールドと呼ばれる茫漠とした色面を用いてキュビズムとシュルレアリスムを乗り越えようとした。

抽象表現主義に続いて、ニューヨークでは次々に新しい表現が勃興し、世界的な注目を浴びる。ネオ・ダダとポップ・アートは日常性や具象性を美術に再び導入し、一群の色面抽象絵画が伸びやかな表現として実現される一方、ミニマル・アートは美術の極限的な在り方を私たちに提示した。第二次世界大戦後、ニューヨークはパリに代わるモダンアートの首都として現代美術をリードし、そこには多くの日本人作家も含まれていた。その中には草間彌生や河原温のように、今日、世界的な作家とみなされる作家も多く存在する。

本展においては現在改修のため休館中の滋賀県立近代美術館が所蔵する日本屈指のアメリカ現代美術コレクションを中心に、ニューヨークが生み出した現代美術の優品を紹介し、「アメリカ美術の勝利」を概観する。

2. 会期 2019年 4月13日（土）～5月19日（日） 休館日 4月30日（火）

開館日数 36日

3. 会場 鳥取県立博物館 第1・第2特別展示室

4. 主催 「ニューヨーク・アートシーン」実行委員会（鳥取県立博物館、和歌山県立近代美術館、徳島県立近代美術館、埼玉県立近代美術館）

5. 助成 地域創造（予定）

6. 入場料 一般800（600）円

7. 出品内容 滋賀県立近代美術館の収蔵作品を中心に和歌山県立近代美術館、大阪新美術館建設準備室、国立国際美術館の所蔵作品約90点で構成

8. 会期中の関連事業 特別講演会や展示解説などを開催予定

企画展「ニューヨーク・アートシーン」 出品作品イメージ



アンソニー・カロ 《パーフェクト》



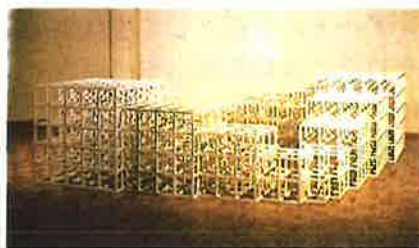
ジョゼフ・コーネル 《無題》



ロバート・ラウシェンバーグ
《カード・ハート・ドア》



ドナルド・ジャド 《無題》



ソル・ルイット 《ストラクチャー
(正方形として1, 2, 3, 4, 5)》



リチャード・セラ
《床に立つ縦長の長方形》



マーク・ロスコ
《ナンバー28》



ジョージ・シーガル
《コーヒーを注ぐウェイトレス》

■趣 旨：

生物の歴史は、絶滅の歴史ともいえます。これまで地球上では、恐竜の絶滅など5回の大絶滅があり、その度に70～95%の生物種が絶滅しましたが、その原因は環境や気候の変化だったと考えられています。そして現在、地球上は第6回目の大絶滅時代と言われています。

現在の絶滅はこれまでと異なり、ほぼ100%、人の行為や活動に起因しています。飛ばない鳥ドーデーの絶滅は、大航海時代の人の世界各地への進出が引き金になりました。そして産業革命以降、生物の絶滅は加速し続けています。一方で人という動物は、20世紀初頭に17億人でしたが、現在70億人を突破しました。人と動物の関係を考えなければならない時代でもあります。

マンガの神様と呼ばれる手塚治虫(1928～89年)の作品には、一貫して生命の尊厳が謳われていますが、とくに人と動物の関係を描いた作品には傑作が多くあります。手塚マンガの中では、すべての生きものが対等に描かれています。この世界観や自然観は、第6回目の絶滅時代の今だからこそ重要性が増してきているのではないのでしょうか。

そこで、この企画展では、人との関わりの中で消えていった動物たちの標本とその歴史を、手塚治虫のマンガとともに紹介します。そして、動物たちの現実と、手塚マンガの物語をクロスさせることで、これからの人と動物のあり方を考えます。

■会 期：平成31年7月13日[土]～8月25日[日](44日間) 会期中無休

午前9時～午後5時(土曜日は午後7時まで)

■会 場：鳥取県立博物館 第1・第2特別展示室

■入場料金：700円(団体・前売500円)(予定) /次の方々は無料です：◎大学生以下 ◎70歳以上 ◎学校教育活動での引率者 ◎障がいのある方・要介護者等およびその介護者 ◎難病患者の方

■主 催：鳥取県立博物館

■企画協力：手塚プロダクション

■協 賛：未定

■展示構成：

- I 人類が誕生する以前(地質時代)の絶滅：アノマロカリス、三葉虫、アンモナイト、ダンクルオステウス、魚竜、翼竜、孔子鳥、恐竜など
- II 消えた動物たち：ドーデー、ステラーカイギュウ、ニホンアシカ、ニホンオオカミ、ニホンカワウソ、トキ、キタタキ、ミナミトミヨ、スジゲンゴロウ
- III 鳥取県の絶滅動物：コウノトリ、コバネアオイトトンボ、ナニワトンボ、カワラバッタ、ヒョウモンモドキ、オオウラギンヒョウモン、シータテハ / 地域絶滅：ハラビロハンミョウ、マイコアカネ、ダイコクコガネ、ゲンゴロウ、フサヒゲルリカミキリ、ウスイロヒョウモンモドキ、カラスガイなど
- III 手塚治虫マンガにみる人と動物：ニホンカモシカ×『ころすけの橋』、エゾオオカミ×『ロロの旅路』、ヒグマ×『山太郎かえる』、ホンドモモンガ×『モモンガのムサ』、ライオン×『ジャングル大帝』、ウンピョウ×『大將軍森へ行く』、ジャガー×『大地の顔役バギ』、オオシャコガイ×『青い恐怖(ブラック・ジャック)』、イリオモテヤマネコ×『オペの順番(ブラック・ジャック)』
- V ヒューマン・ネイチャー～人と動物の関係を考える～：チュウゴクオオサンショウウオ×『オリジナル漫画』、ニホンジカ×『ブッダ』、フクロギツネ、マダラウミスズメ、サキグロタマツメタ、アジアゾウの「和子」、火の鳥×『火の鳥』
- VII 手塚治虫の世界(図書コーナー・販売コーナー、ワークショップなど)

■関連事業：

- ・映画上映会：「ジャングル大帝(劇場版、1997年)」 / 当館講堂
- ・講演会・ワークショップ(予定)

平成31年度 鳥取県立博物館 企画展 展示予定資料



①



②



③



④



⑤



⑥

①ニホンアシカ(剥製)

竹島で昭和6年に射殺されたオスの成獣「リャンコ大王」

②ニホンオオカミ(頭骨)

愛媛県松山市で捕獲された実物資料

③ニホンカワウソ(剥製)

④キタタキ(剥製)

⑤カワラバッタ(標本)

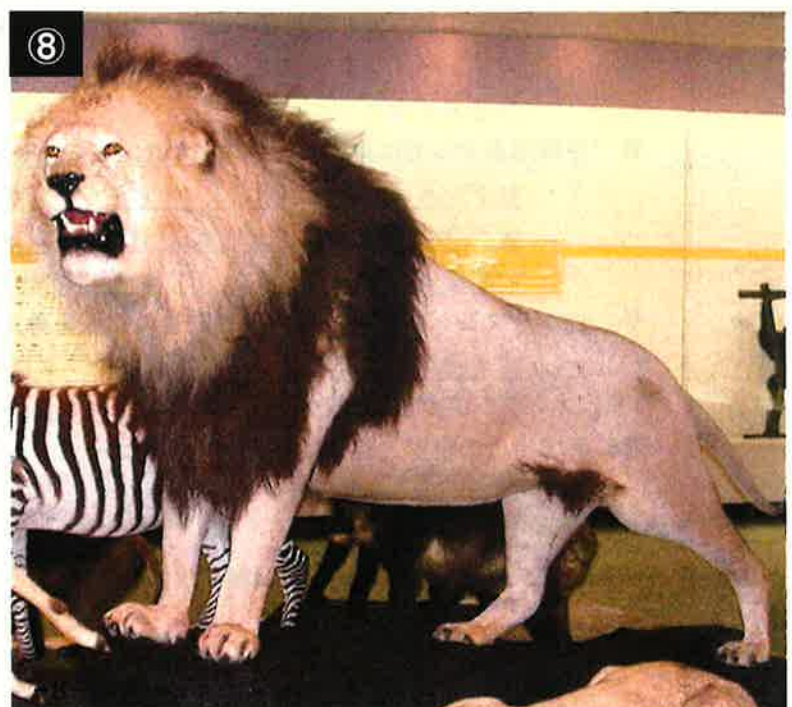
⑥スジゲンゴロウ(標本)

⑦チュウゴクオオサンショウウオ(骨格)

⑧ライオン(剥製)



⑦



⑧

企画展「黄檗と鳥取藩（仮）」開催要項（案）

1 概要

黄檗宗は、承応3年（1654）に中国・明から渡来した隠元隆琦禅師によって開立された。隠元によってもたらされた黄檗の禅風は、当時の日本の禅宗界に新風を吹き込み、寛文元年（1661）には大本山である黄檗山萬福寺が京都宇治の地に開創された。また、隠元禅師は「いんげん豆」に代表されるように多くの中国文化を日本にもたらし、黄檗寺院が発信した多彩な文物は、江戸時代の文化に大きな影響を与えた。

江戸時代の鳥取は、鳥取藩の歴代藩主が黄檗宗に帰依し、その菩提寺である興禅寺は「黄檗三叢林」とされる高い寺格を誇ったほか、大本山萬福寺の住持を排出するなど黄檗のメッカともいえるべき地であった。また、興禅寺の前身である龍峰寺3世の提宗和尚は、隠元禅師

また、鳥取藩分家西館の当主で文人大名として名高い池田冠山は、現在でも江戸の黄檗寺院に関する基礎文献となっている『江戸黄檗禅刹記』を記すなど黄檗ゆかりの人物が存在する。

このように、黄檗宗は江戸時代の鳥取の文化を語る上で欠かせない存在であるが、これまで県内の黄檗宗や黄檗寺院に関して広く紹介されることはなかった。本展覧会は、県内の黄檗宗に光を当てるはじめての試みであり、鳥取の文化に大きな影響を与えた黄檗の歴史を紹介するとともに、大本山萬福寺や県内の黄檗寺院が所蔵する名宝を一堂に展示するものである。

2 会期

平成31年10月5日（土）～平成31年11月4日（月・祝）

開館時間：午前9時から午後5時まで（入館は午後4時30分まで）

3 会場 鳥取県立博物館第1、2特別展示室

4 入館料

一般500円（団体300円）

次の方は無料。大学生以下の方、70歳以上の方、学校教育活動での引率者、障がいのある方、要介護者等及びその介護者

5 主催 鳥取県立博物館

6 協力 黄檗山萬福寺、龍峰山興禅寺

7 展示構成案

- (1) 臨済宗黄檗派と隠元禅師
- (2) 黄檗禅の名宝（大本山萬福寺所蔵品をはじめとする黄檗の名宝を展示）
- (3) 諸大名の黄檗帰依
- (4) 提宗と鉄牛
- (5) 因伯における黄檗のあしあと
- (6) 鳥取藩西館池田冠山と『江戸黄檗禅刹記』

8 関連事業

講演会2回（田中智誠氏、錦織）、煎茶会、普茶料理会、ギャラリートーク

「黄檗と鳥取藩」展示予定資料



隠元隆琦倚像 (萬福寺蔵)



国重文 隠元隆琦筆「黄檗山」(萬福寺蔵)



伊藤若冲筆「蒲庵浄英像」(萬福寺蔵)



国重文 陳賢「観音図帖」(萬福寺蔵)



国重文 池大雅筆「五百羅漢図」(萬福寺蔵)



片山楊谷筆「万浪和尚頂相」(興禅寺蔵)



「即非和尚頂相」(興禅寺蔵)



「華光菩薩坐像」(興禅寺蔵)

平成31年度企画展

「生誕120年 塩谷定好とその時代」(仮称)

開催要項(案)

1 趣 旨

塩谷定好(しおたに・ていこう 1889年～1988年)は、大正末から昭和初期にかけて隆盛した「芸術写真」の第一人者です。鳥取県の赤碕に身を置きながら、山陰の風景や人物を独特のソフトフォーカスでとらえた作品は、『カメラ』や『アサヒカメラ』といった写真雑誌の全国コンクール「月例懸賞」で入選を重ね、その名を全国に知らしめました。その後新興写真などの新しい写真の動向の波が広がるにつれ、表に出ることは少なくなりましたが、地元のカメラクラブで旺盛な活動を行い、終生にわたって作品をつくり続けました。

近年では、1982年にドイツのケルンで開催された世界最大の写真関連見本市「フォトキナ写真展」での最高賞である栄誉賞の授賞にはじまり、美術館での個展も開催されるなど、再評価の動きが高まっています。

鳥取県立博物館では、このたび塩谷定好の生誕120周年を記念して、1920年代初期から70年代までその作品の全貌を紹介する回顧展を開催します。また、その初期に参加した「光影倶楽部」、創設者でもある「ベスト倶楽部」といった地元のアマチュアカメラクラブでの活動や、日本光画協会やカメラ雑誌『芸術写真研究』で交流のあった芸術写真を代表する写真家たちについての資料もあわせて展示します。

- 2 会 期 等 平成31年11月16日(土)～12月15日(日)
- 3 会 場 鳥取県立博物館 第1・第2特別展示室
- 4 主 催 鳥取県立博物館
- 5 入 場 料 一般800(前売・団体600)円
- 6 関連事業 特別講演会、展示解説ギャラリートーク、ワークショップ等

9 出品作品（概算）

平成31年度企画展

「生誕120年記念展 塩谷定好とその時代（仮称）」

出品作品イメージ



塩谷定好写真作品：1 《台所道具を配せる主婦像》1924 2 《静夜》1929 3 《村の鳥歌》1925 4 《三人の小次主》1929 5 《トンネルのある風景》1930 全て鳥取県立博物館蔵



塩谷定好と交流のあった作家たち：

左：山本牧吾《ウラリキットを吹く少年の像》1923 [ペンタックスカメラ博物館蔵] 中：南山正隆《静物》1923 鳥取県立博物館蔵 右：権坂清里《けし》 鳥取県立博物館蔵

平成31年度企画展

—^{サンドスケープ}静寂なる砂の景— 生誕100年 國領經郎展 (仮称)

開催要項 (案)

1 趣 旨

國領經郎 (こくりょう・つねろう 1919年～1999年) は、砂丘や砂浜を舞台とした情感豊かな絵画作品を数多く描いたことで知られる、日本芸術院会員で日展を中心に活躍した、戦後日本を代表する洋画家のひとりです。

「むきだしの自然」と國領が語った「砂丘」は、訪れた人々の詩的感覚や人生観を揺さぶり、孤独な瞑想の時へと導いていくような、静寂さに満ちた神秘的な場所です。そのような砂丘に強く心を惹かれた國領は、静岡県の中田島砂丘や浜岡砂丘、鳥取県の鳥取砂丘など日本各地の砂丘地を取材し、砂のある茫漠とした風景とさまざまな人物、そして鳥たちを登場させる独特の作品世界を構築しました。

本展は、國領の生誕100年の記念すべき年に改めてその画業を見つめ直そうとするもので、國領出身地の横浜美術館と鳥取県立博物館が所蔵する國領作品を中心に構成する大規模な回顧展です。初期から晩年までの代表作を紹介しながら、國領が表現しようとしたもの、砂のイメージに託そうとしていたものとは何かを探ります。

- 2 会期等 平成32年1月25日 (土) ～2月25日 (火)
※休館日：1月27日 (月)、2月3日 (月)、17日 (月)
※開館日数：29日間
- 3 会 場 鳥取県立博物館 第1・第2特別展示室
- 4 主 催 鳥取県立博物館、美術館連絡協議会ほか
- 5 特別協賛 國領經郎顕彰会
- 6 入場料 一般800 (600) 円
- 7 出品内容
横浜美術館、鳥取県立博物館所蔵の國領作品を中心に、国内美術館が所蔵する油彩画や素描類を併せて70点程度を出品
- 8 会期中の関連事業
特別講演会や展示解説などを開催予定

平成31年度企画展

「生誕100年 國領經郎展」

展示イメージ(主な出品予定作品等)資料



《遠い海》1977年 鳥取県立博物館蔵



《砂の上の群像》1974年 京都国立近代美術館蔵



《襲》1979年 横浜美術館蔵



《海浜の風景》1971年 個人蔵



《風》1981年 愛知県美術館蔵



《遥眺》1992年 鳥取県立博物館蔵

平成32年度（2020年度）企画展開催計画（案）

※企画展名はすべて仮称です

分野	企画展名	会 期	債務負担行為 要求額（千円）
自然	森の宝石 変形菌ワンダーランド	平成32年 7月23日～ 8月28日	22,100
人文	60'S東京オリンピックとその時代	平成32年 6月6日～ 7月5日	19,250
美術	暮らしに生きるフィンランドデザイン展	平成32年 10月10日～ 11月15日	23,657
美術	ミュージアムとの創造的対話03	平成32年 11月28日～ 12月27日	8,959
美術	岡本太郎とクルト・セリグマン展	平成33年 2月11日～ 3月21日	14,840
合 計			88,806

STATE OF TEXAS

COMMISSIONERS OF THE GENERAL LAND OFFICE

Section	Block	Tract	Acres
101 10	101 10	101 10	101 10
102 10	102 10	102 10	102 10
103 10	103 10	103 10	103 10
104 10	104 10	104 10	104 10
105 10	105 10	105 10	105 10
106 10	106 10	106 10	106 10
107 10	107 10	107 10	107 10
108 10	108 10	108 10	108 10
109 10	109 10	109 10	109 10
110 10	110 10	110 10	110 10

2020年度企画展「森の宝石 変形菌ワンダーランド(仮)」開催要項(案)

1 趣旨

あるときは小さなキノコのような形になり、あるときはアメーバになってバクテリアを食べながらはい回る。不思議な生きもの変形菌は、普段はあまり気づきませんが、私たちのすぐ身近なところで見ることができます。

本企画展では、形や色が多様な変形菌のすがたやその生態だけでなく、変形菌とほかの生きものとのかわりや最新技術との接点などを取り上げ、映像展示や体験型展示を冀段位取り入れ変形菌の魅力について紹介します。

2 会期：2020年7月23(土)～8月28日(日)(37日間、会期中無休)

3 会場：鳥取県立博物館 第1・2特別展示室

4 入場料：一般●●●円(団体・前売●●●円) ※次の方は無料：大学生以下、70歳以上、学校教育活動での引率者、障がいのある方・要介護者等及びその介護者

5 協力：ミュージアムパーク茨城県自然博物館、国立科学博物館、北海道大学、東北大学、宮内庁、南方熊楠記念館、南方熊楠顕彰館、和歌山県立自然博物館、日本変形菌研究会、萩原博光、山本幸憲、高橋和成、高野丈、松本 淳

6 展示構成とおもな展示資料(予定)

<展示内容>

第1章 変形菌ってどんな生きもの?

ジクホコリ拡大模型、変形菌の子実体生態写真、子実体形成の動画、ゾートロープで見える変形菌、生きた変形菌アメーバ、変形菌のライフサイクル、変形菌を食べる生きもの、こんなに違う変形菌ときのこ

第2章 変形菌はどこにいる

朽ち木に見られる変形菌、落ち葉に見られる変形菌、生きた植物体に見られる変形菌、雪解けとともに見られる変形菌、変形菌に近縁な生きもの、とつとりの変形菌、変形菌を育てる

第3章 変形菌に魅せられた人々

変形菌研究史 ー南方熊楠、昭和天皇をふくむ変形菌研究ネットワークー

第4章 変形菌とアート

変形菌グッズ、変形菌を撮る

第5章 変形菌研究最前線

自律分散制御ロボット、変形菌が迷路を解く、生態系と変形菌

第6章 変形菌プレーランド

変形菌フォトジェニック、変形菌塗り絵、変形菌コスプレ、森の妖精変形菌、変身ゾートロープ

7 関連事業

・キックオフイベント「高野丈 変形菌写真展」

7月上旬 イオン北店コンコース

・野外観察会「変形菌を探そう」

○月○日(土)13:30～16:30/会議室/講師：高橋和成)

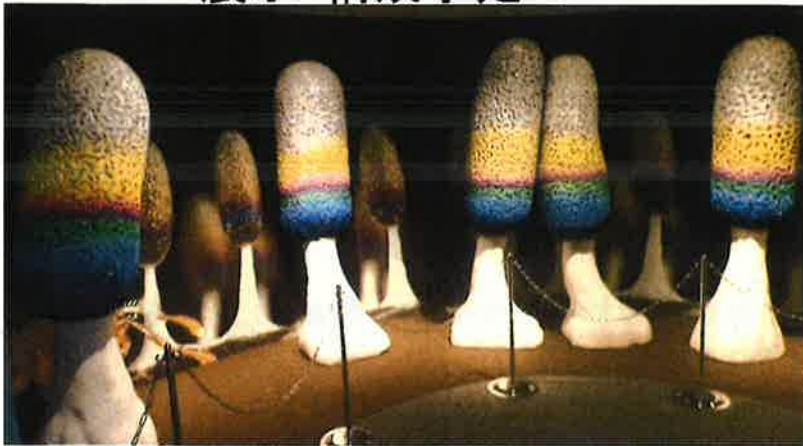
・講演会「変形菌研究史 昭和天皇・南方熊楠」

○月○日(土)13:30～15:30/講堂/講師：萩原博光)

・ワークショップ「かわいらしい変形菌の模型をつくろう」

○月○日(土)13:30～15:30/会議室/講師：○○○○)

2020年度企画展 森の宝石 変形菌ワンダーランド(仮)
 展示・構成予定



大型ジクホコリ模型



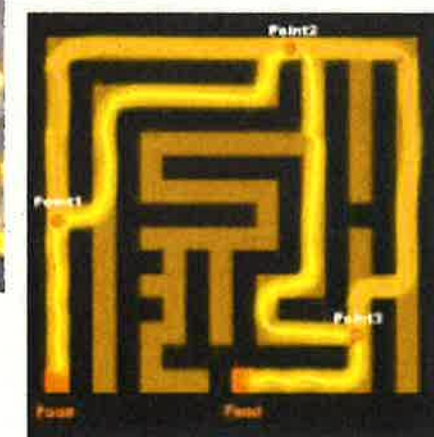
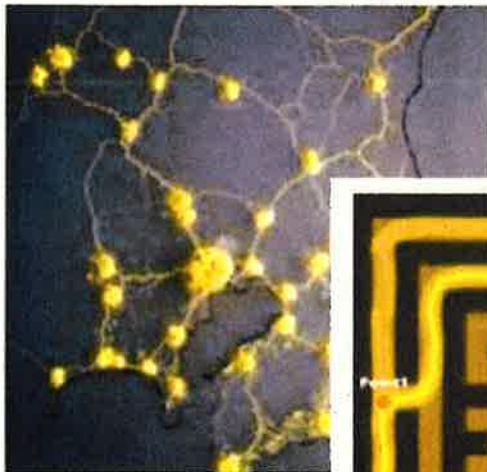
日本最古のジクホコリ標本



南方熊楠本使用のキャラメル箱



昭和天皇採集標本



交通網をえがく変形菌・迷路を解く変形菌



変形菌ワンダーランド
 ・撮影
 ・観察
 ・工作 等

2020年度鳥取県立博物館企画展「60'S東京オリンピックとその時代」
開催要項（案）

1 趣旨

2020年は、2回目の東京オリンピックの年です。昭和39年（1964）、アジア初の開催となった東京オリンピックはこの時代を象徴する国民行事であったといえるでしょう。

昭和30年代後半から40年代に高度成長期を迎えた日本の経済は、それまでの伝統的な生活様式を一変させました。これまでの日本の伝統的なものづくりも工場で大量生産されるようになり、日本の住宅事情、夢のマイカー時代、お茶の間へのテレビの浸透など社会状況は変容しました。56年経った現在の日本の発展もこの時代から始まったといっても良いでしょう。

本展では、日本と鳥取県の1960年代の出来事、当時の国民生活資料を展示します。そして、県民から提供された「わたしの60年代」を象徴する一品を合わせて紹介し、ひと昔前の豊かな時代を体感していただきたいと思います。

2 展示内容

- (1) 戦後復興から豊かな時代へ
- (2) 東京オリンピック
- (3) わたしの60年代
- (4) その後の経済発展

3 会期

2020年6月6日（土）から同年7月5日（日）まで
〔29日間、休館日は6月22日（月）〕

4 会場

鳥取県立博物館 第1・第2特別展示室

5 主催

鳥取県立博物館

6 関連行事

- ・ギャラリートーク
- ・歴史講座（当館学芸員）
- ・講演会（外部講師）

7 観覧料

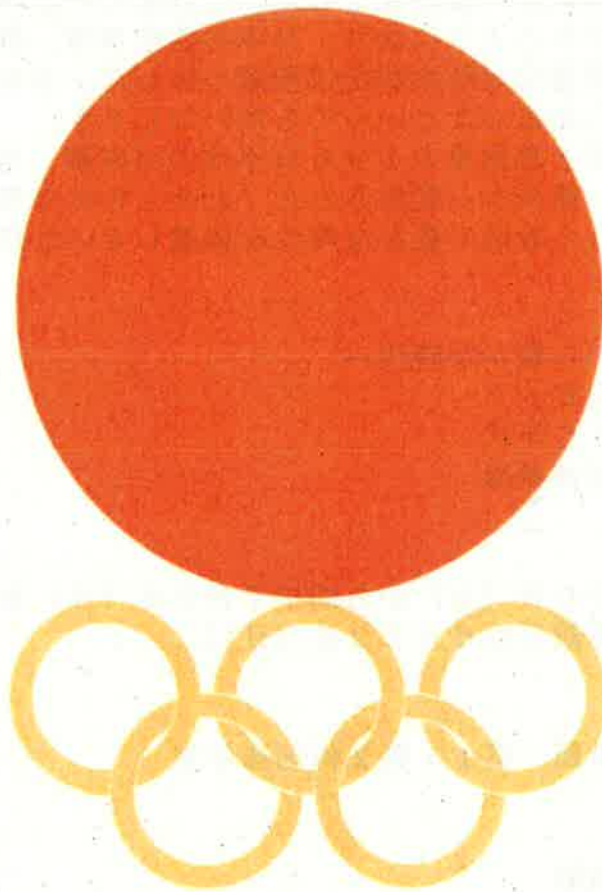
一般700円（団体・前売・大学生・70歳以上の方500円）

障がいのある方・要介護者等およびその介護者、難病患者の方、学校教育活動での引率者は減免（観覧無料）

8 予算（概算）19,250千円



路地裏(駄菓子屋)



TOKYO 1964

東京オリンピック
グランドデザイン



キッチン(ジオラマ)



応接間(ジオラマ)

平成32年度企画展
フィンランドと日本修好100周年

暮らしに生きるフィンランドデザイン

～自然に導かれた伝統のスタイル～（仮称）

開催要項（案）

1 趣旨

フィンランドは、美しいデザインの宝庫である。人々が癒され、長きにわたり日々使い続けているそのデザインは、大いなる自然を忘れないという考えに裏付けられており、人々は建国前から大地の温かさを生活に取り入れ、そのライフスタイルを愛してきた。自然の恵みは、優れたアーティスト、デザイナー、建築家を生みだし、彼らの活躍により洗練された近代的な社会が確立された。その積み重ねは、より優れたフィンランド独自のデザインを今も生み出し続け、魅力的なその製品は世界各国で支持されている。

本展では、200年にわたりフィンランド建国を支えたテキスタイル（染織品）の歩みを中心として、生きとし生けるものと共存するフィンランドの人々の豊かな考え方や彩りに溢れ、創造に満ちたデザインの数々を、ヘルシンキ市立アートミュージアムのコレクションから紹介する。フィンランド同様に自然が豊かで、優れた手仕事の残る鳥取県で、温かみと洗練さを兼ね備えたフィンランド・デザインの世界を楽しむ機会とする。

2 会期等 平成32年10月10日(土)～11月15日(日) ※37日間

3 会場 鳥取県立博物館 第1・第2特別展示室

4 主催 鳥取県立博物館、ヘルシンキ市立アートミュージアム（HAM）、NHK鳥取放送局、NHK プロモーションほか

5 入場料 一般1000（800）円

6 会期中の関連事業（予定）

特別講演会や展示解説などを開催予定。

7 予算（概算） 23,657千円

平成32年度企画展

「フィンランドデザイン展」

展示イメージ(主な出品予定作品等)資料



トーベ・ヤンソン(ムーミンの作者)による水彩画



子ども部屋の再現



夏のコテージをイメージしたパターンサンプル



可愛らしいデザインのベビーグッズの数々



フィンランド一般家庭の室内再現



服飾デザインなどの展示イメージ



鮮やかな染色(プリント柄)デザイン



斬新なガラス工芸作品

平成32年度企画展
シリーズ ミュージアムとの創造的対話 03
アーティスト/コレクター 何が価値を創造するのか？(仮称)
開催要項(案)

1. 企画概要

鳥取県立博物館は、昭和47年の開館以来今日まで、調査研究に基づく資料の収集や展覧会及び教育普及プログラムを通して、文化芸術を保存し、次世代へ継承していくための活動を行ってきました。これをさらに広げ、オープンエンドな「未来の美術館」の姿を描くための試みとして、シリーズ「ミュージアムとの創造的対話」をはじめました。この企画展は、「ミュージアム」という場所や従来の枠組みにとらわれないという精神の下、国内外の優れたアーティストによる実験的で多彩な表現を展示室の内外に展開させて、ミュージアムを批評的な視点を持ってながめ対話していきながら、これからの美術館/博物館のあり方、その可能性を模索するものです。

第3回目の今回は、価値の創造者としての「アーティスト」と「コレクター」をテーマに、ある個人コレクターのコレクションと、当該コレクションに収集されているアーティストの新作による展示を行います。

2. 会期:平成32年11月28日(土)~12月27日(日) 30日間

3. 会場:鳥取県立博物館2階 第1~第3特別展示室、鳥取県内の文化施設・文化財史跡、空き施設等

4. 料金:600円(前売り・団体 400円)

5. 主な出品予定作家:原口典之、竹川宣彰、村岡三郎ほか

6. 主催:鳥取県立博物館

7. 関連事業:特別講演会やトークイベント、展示解説を開催予定。

8. 予算(概算):8,959千円

9. 問合せ先 鳥取県立博物館 美術振興課 赤井あずみ
(TEL. 0857-26-8045)

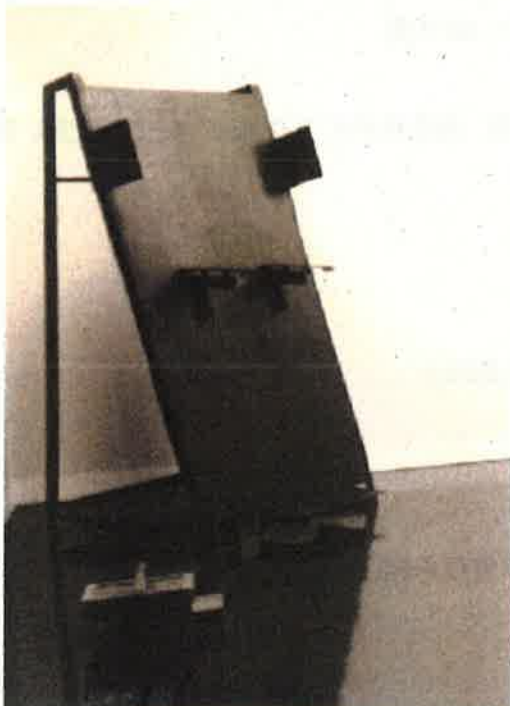
ミュージアムとの創造的対話 vol.03 アーティスト / コレクター (仮称) 主な出品作品



竹川宣彰《遊牧》2011
牛乳パック、木、ボンド



松澤宥《白い円》
シルクスクリーン / 紙



原口典之《Untitled》2016
鉄、ワイヤーロープ

岡三郎《IRON Bed》1979



岡本太郎とクルト・セリグマン（仮称）

開催要項（案）

1 趣旨

岡本太郎（1911－1996年）は1940年までの約10年間、パリを拠点に活動した。抽象芸術とシュルレアリスムが席卷していた同地において岡本は、1933年に前衛芸術家グループ「アプストラクシオン・クレアシオン（抽象・創造協会）」に参加し、所属芸術家との親交を深めている。なかでもクルト・セリグマン（1900－1962年）との交流は、密度の高いものであったことがうかがえる。造形面では、1934年頃のセリグマンの作品と岡本の《空間》《リボン》にみられる類似性に加え、両者ともに「リボン」をモチーフとした作品を継続的に制作している。また主義思想の面では、戦後に岡本が自著『画文集・アヴァンギャルド』のなかで自身の活動の根幹をなす理論として明文化した「対極主義」に、かつてアプストラクシオン・クレアシオンの会報上において、「抽象」と「超現実主義」を統合し超克する必要性を訴えていたセリグマンの言説との大きな関連性を見出しうる。加えて、東京でのセリグマンの個展（1936年）とニューヨークでの岡本個展（1953年）の開催は、まさしく両者の友好と協力関係の賜物であった。

本展は、川崎市岡本太郎美術館の所蔵作品に加えて海外のギャラリーおよび個人蔵作品によって構成するものであり、日本万国博覧会50周年に合わせ、その文化面で功績のあった岡本の芸術を改めて捉え直す機会とする。とりわけその作品制作と思想の基盤を形成したパリ時代に焦点をあて、とくに深い絆で結ばれた盟友であるクルト・セリグマンの作品群とともに紹介することで、岡本芸術の形成過程を探るものである。

2 会期等 平成32年2月11日(木・祝)～3月21日(日) ※34日間／月曜日休館

3 会場 鳥取県立博物館 第1・第2特別展示室

4 主催 鳥取県立博物館、美術連絡協議会ほか

5 企画 川崎市岡本太郎美術館

6 入場料 一般800（600）円

7 会期中の関連事業（予定）

特別講演会や展示解説などを開催予定。

8 予算（概算）14,840千円



岡本太郎《空間》1934-54年



岡本太郎《傷ましき腕》1936-49年



クルト・セリグマン
1930年代



クルト・セリグマン
《La Combat》
1934年



クルト・セリグマン
《ガラス絵》1940年頃



クルト・セリグマン
《Amphitrite》1946年



クルト・セリグマン
《Ecosaise》1953-54年



クルト・セリグマン
《Evocation》1955年
(1956年「世界今日の
芸術」展出品作)



クルト・セリグマン
《Metamorphosis》
1958年